

# も り 森 林 の 話

若手職員のコーナーです

第40話  
留萌南部森林管理署  
村上 大和

## 【自己紹介】

私は空知郡南幌町で生まれ育ち、帯広農業高校森林科学科を卒業後、留萌南部森林管理署に採用されました。採用から2年目までは「業務グループ」に所属し、主に製品生産・製品販売事業を担当しました。3年目からは「増毛・幌糠森林事務所」に配属となり、地況・林況調査や各種事業請負の監督業務などに携わっています。

今回は、日々の業務の中で特に印象に残っていることについて紹介します。

## 【暑寒別岳】

暑寒別岳は、増毛国有林に所在する標高1,492mの山で、特に6月中旬から7月にかけては、山頂一帯にお花畑が広がります。マシケゲンゲ(図1)、マシケオトギリ(図2)といった固有種も見られ、



図1



図2

「花の名山」として多くの登山者に親しまれています。

また、山麓に広大な原始林が広がり、晴れた日は山頂から大雪山、羊蹄山、利尻山、積丹半島などを一望することができます。

留萌南部森林管理署では、年に一度、署内で希望者を募り、箸別ルート清掃登山を実施しています。

昨年度は7月中旬に行いましたが、入山者の皆様のご協力もあり、回収したごみの量は少なく、美しい自然環境が良く保たれていることを実感しました。



## 【冬の現場業務について】

私の担当区部内は豪雪地帯に位置しており、冬は積雪量が多く、軽装備での作業は困難となります。そのため、冬の現場ではゾンメルスキーやスノーハイク、スノーシューを活用して業務を行っています。

ゾンメルスキーは、一般的なゲレンデスキーとは異なり、踵が浮く構造になっており、滑走面にはアザラシの毛皮が取り付けられています。一方、スノーハイクはゾンメルスキーよりも横幅が広く、毛皮の代わりに「クライミングシール」が装着されています。これらの道具は、冬期の現場業務において欠かせない存在です。

私自身、初めて使用した際は「ゲレンデスキーと同じ感覚だろう」と思っていたのですが、実際には全く乗り心地が異なり、

何度も転んだことを今でもよく覚えています。

体力やバランスに自信がある方は、機会があれば、ぜひ一度挑戦してみてください！

## 【最後に】

高校では林業について専門的に学び、自信を持って着任しましたが、実際の業務を通じて、自身の知識や経験がまだまだ未熟であることを日々痛感しています。

今後も現場での経験を大切にしながら、学び続け、より確実に安全な業務遂行に努めていきたいと考えています。



左 ゾンメルスキー

右 スノーハイク